

まんが de 発見

滋賀県立大学 やまだ りほ 山田梨穂さん

育児は女性の仕事？



地域の女性参画が重点事業に

「アドバイザー派遣、講演会・ワークショップ」で地域と共に

長浜市は今年度「地域における女性の参画推進事業」を重点事業として実施する。

自治会や地域づくり協議会など地域の組織では、担い手不足が深刻化する一方で、その運営は主として男性がとりしきり、女性が補助的な役割を担う傾向がある。

(市民意識調査参照)

このような現状を見直し、女性を含め、様々な人が地域づくりの運営に関わっていくことで新しい考えや、アイデアが生まれ、よりオープンで活気あふれる地域社会の実現や、担い手不足の解消に繋がっていくことが期待できる。そこで、今年度「多様な関わり」の重要な一歩として、地域における女性参画を進めるため

- ① 講座・ワークショップ開催
- ② アドバイザー派遣
- ③ 新聞発行

滋賀県内市町の自治会役員

県調べ(令和5年4月1日現在)

	自治会数	うち女性代表等	女性比率
大津市	723	230	31.8%
草津市	220	66	30.0%
守山市	71	17	23.9%
栗東市	125	26	20.8%
野洲市	92	18	19.6%
湖南市	43	6	14.0%
彦根市	326	45	13.8%
....			
長浜市	426	4	0.9%

湖北地域の伝統行事「オコナイ」(川道神社)に女性が参画する改革を進めた当時のプロジェクト委員長の前田光治氏は、地域における女性参画推進アドバイザーに委嘱され、「だれもが暮らしやすい、だれ一人取り残さない持続可能な地域づくりのお役に立てれば」と意気込みを語った。

令和7年度地域における女性の参画推進事業

③新聞発行

- ・地域の女性参画の現状
 - ・女性参画に取組んでいる地域の情報 等...
- をお届けします！



◀ 詳細



②アドバイザー派遣

女性参画、興味はあるけど...その方法が分からない。

地域の団体
自治会・地域づくり協議会
等の皆さん向けに
アドバイザー派遣します！



◀ 詳細

①講座 ワークショップ

地域の身近なテーマで開催

- ・防災
- ・女性の心理的ハードル 等...



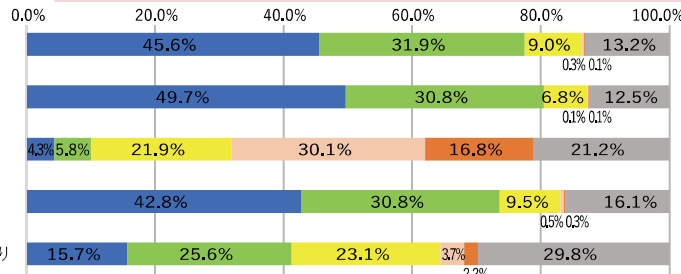
◀ 詳細

令和3年度長浜市男女共同参画に関する市民意識調査

◆地域活動の役割分担

1. 地域役員や催しものの企画・決定
2. 集会などの運営とりしきり
3. 集会などでのお茶くみ・調理
4. 祭りや葬儀の運営とりしきり
5. PTAや保護者会の運営とりしきり

■1主として男性 ■2どちらかといえば男性 ■3男女同程度 ■4どちらかといえば女性 ■5主として女性 ■6わからない(必要がない)



▲女性・子どもも主役
川道神社オコナイの様子

ともまち新聞

女性参画でともまちづくり

第1号

走りだせ、性別のハードルを越えて、今

内閣府男女共同参画局
男女共同参画週間キャッチフレーズ(平成30年)

発行
長浜市
市民活躍課
☎(65)8711

地域の女性参画 ヒントを見つけに、
大学生が地域に飛び出しインタビュー！

地域のキラキラさん見いっつけた！

24年間の教員経験
村居範子さん

文 滋賀県立大学 村居良夏さん
藤原優希さん



▲インタビューを受ける村居範子さん

女性の多く、子育てや家庭生活との両立は難しかったという。産休も今より短く、村居さんも復帰後すぐに働くことに苦労した。

そんな中、教員を続けられたのは、好きな仕事であり、家族と周りの人の支えがあったことが大きかったと語った。

インタビューを経て(感想)

村居さんが教員という職業をめざしたのは、小学生の頃観た「二十四の瞳」という映画がきっかけ。

授業中はどちらかというところ、厳しい教師だったと自身の教員生活を振り返る。

一方で、休み時間や放課後には、映画に登場する大石先生のような、何でも話しやすい雰囲気のある先生像を意識していたという。

大学時代、好きな数学の免許のほかに、女性の就職に有利になると勧められ、家庭科の免許も取得し、家庭科の教員になった。

当時は女性の教員が少なく、さらに結婚後には退職する

私の理想の職場は、男女関係なく、やりたいと思ったことが、自由に当たり前にできる環境です。今は両立支援が広がっていますが、実際にはまだまだ難しい部分が残っています。ですが、困ったことがあればお互い様です。日頃から信頼関係を築き、支え合える環境であればいいと思います。そのために、普段から積極的にコミュニケーションをとっておくことが大事だと感じました。

インタビューから、時代の変化とともに、個人の考えも大きく変わってきていることがわかりました。そして、村居さんのように自分の人生を自分らしく、大切に過ごしていきたいと思っています。

「ともまち新聞」の作成には
ジェンダーを学ぶ「滋賀県立大学京楽ゼミ」の皆さん
に参画いただいています。